

令和5年度 昭和小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、心身ともに健康で想像力に富み、豊かな情操と正しい判断力・実践力のある心豊かで、たくましく生きる児童を育成する。

（2）具体目標

心豊かで思いやりのある子 健やかでたくましい子 自ら学び自分をのばす子

《目指す児童像》 「やさしい子」 「元気な子」 「よく学ぶ子」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の達成を目指して学校経営を進めるにあたり、児童にとって「行きたくなる学校」、保護者や地域住民にとって「行かせたい学校」、教職員にとって「勤めたい学校」、そして誰にとっても「魅力ある学校」にしたいと考える。

そのため、地域の教育資源を積極的に活用しながら創意工夫を生かして本校独自の教育活動の充実を図り、「特色ある学校づくり」を推進する。

《目指す学校像》 「活気ある学校」 「安全・安心な学校」 「地域とともにある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）教育活動の質の一層の向上を目指し、カリキュラム・マネジメントにより学習効果の最大化を図るとともに、本年度の重点目標等について学校と保護者、地域住民が共有できるようにしながら地域の教育力を最大限に活用して特色ある教育活動を推進する。

（2）「やさしい子」：心豊かで思いやりのある子を育成するため、自他の生命と人権を尊重する心や思いやりの心など育む豊かな体験活動と、全教育活動を通じた道徳教育を推進する。

（3）「元気な子」：健やかでたくましい子を育成するため、健康で安全な生活ができる基本的生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。

（4）「よく学ぶ子」：自ら学び自分をのばす子を育成するため、学ぶ意欲を高めながら、知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力を育む学習活動を推進する。

（5）「信頼される学校宣言」のもと、全ての教職員が、高い倫理観や人権意識と使命感をもつとともに真摯な態度で自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にする教育活動を実践し、誰からも信頼される教職員として職務に励む。

（6）教職員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務し、児童と向き合いながら質の高い教育が行えるよう、教職員の働き方改革の視点に立ち、職場環境改善のための取組を推進する。

（7）星が丘地域学校園小中一貫教育を「自己肯定感を高めること」を最重点目標として推進するとともに、学校地域協議会との連携強化により地域とともにある学校づくりに努める。

〔星が丘地域学校園教育ビジョン〕 未来を見つめ、主体的に生き抜く力の育成

4 教育課程編成の方針

（1）日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人権尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。

（2）心身の発達段階や特性・子どもの育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「一人一人が優しさへの感性を豊かに備え、それぞれの可能性を最大限に発揮できる学校」を目指す。

（3）学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実を目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実に努める。

（4）各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。

（5）前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

全教職員がチーム力を高めながら活気ある学校づくりに努め、地域の教育力をこれまで以上に有効に活用して特色ある教育活動を推進するとともに、学校の情報を積極的に発信し、地域協議会〈夢工房〉と一体となって、地域ととともにある学校づくりを推進する。

(2) 学習指導

～主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成～

・児童が自ら考え分かりやすく表現できるようにするための授業の進め方の工夫

○基礎・基本定着のための「じっくりタイム」の実施と家庭学習の習慣化

・夢や希望の実現に向けて努力する態度を育むためのキャリア教育の推進

・よりよい授業を目指した学力調査等の結果を分析・活用した授業改善

(3) 児童生徒指導

～自分を大切にし、他者もかけがえない存在として大切にできる態度・実践力の育成～

○自己肯定感を高めるための「認める、褒める、励ます」指導の一層の推進

○進んで元氣なあいさつができるようにするための、児童主体のあいさつ運動の促進

・すべての児童が楽しく明るく生活できるようにするためのいじめゼロ運動の推進

・豊かな心を育むための地域の教育資源を生かした体験活動の実施

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

～自他の命や健康の大切さを知り、健康・安全・体力の向上に心がける態度・実践力の育成～

・自分の命を守る行動力を身に付けるための、安全指導の推進

・自らの健康を管理する力を身に付けるための、保健教育と食育の推進

○進んで運動し体力を高めるための、外遊びの奨励や各種頑張りカードの活用

・心身のたくましさを育むための八幡山を活用した活動の実施

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止 を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 (⇒児童 85%以上) (⇒教職員 85%以上)	① 学習に関する基本的な行動様式について共通認識を図り、学年の発達段階や実態に応じた指導を繰り返し行う。 ② 授業において、友達と積極的に関わり合いながら児童一人一人の思いを大切にさせたり、場面の工夫をしたりして問題解決に取り組めるように支援する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実し、指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 児童生徒は 90.4%、教職員は 100%となっており、高い数値指標を示した。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。

1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、誰に対しても、思い やりの心をもって優しく接し ている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科 の授業を実施し、生命や人権を尊 重する心や、人を思いやる心など を涵養する。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、 全教育活動を通して人権教育を 計画的に実施する。 ③ 児童会活動や縦割り清掃など学年 を越えた活動を通して、相手の立 場を考えて思いやる心を育む。	B	【達成状況】 肯定的回答は、児童が92.1%、教職員が 100%と数値指数を大幅に上回ってい る。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施すると ともに、児童会活動等における異学年交流 を通して、更に思いやりの心を育ててい きたい。
	A 3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、目標に向かってあき らめずに、粘り強く取り組ん でいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① <u>児童の自己肯定感を高められる よう、児童相互に認め合う場を数 多く設けるとともに、担任も「認 める・褒める・励ます」指導に努 める。</u> ② <u>各教科の授業や各種学習カード 等において、児童が目標をもって 取り組む機会を設けるとともに、 目標の達成に向けて努力してい る児童を称賛する。</u> ③ 道徳の授業において、目標をも って粘り強く取り組むことの大切 さに気付かせるとともに、そうし た実践に向けた意欲を高める。	B	【達成状況】 児童生徒は87.7%、教職員は95.2%と なっており、目標は達成しているが、昨 年度に比べ児童生徒・教職員ともに数値 を下回った。 【次年度の方針】 目標をもち、振り返ったり、キャリアパ スポートを活用したりしながら①②③ を継続して実施する。
1- (3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進	A 4 児童は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付 けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 90%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて 自ら健康を管理できるよう、学級 活動、体育、学校行事と関連を図 った保健教育や日常の生活指導 を行う。 ② 学校給食と各教科等との関連を 図った指導のもと、栄養のバラン スのとれた食事や望ましい食習 慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜 く行動力を育成するため、日常指 導における安全指導を充実する とともに、交通安全教室、避難訓 練等を計画的に実施する。	B	【達成状況】 肯定的回答は、教職員が100% 保護者 が、93.0%と数値指標を上回っており、 昨年度とほぼ同じ状況である。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。

1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 における肯定的回答 (⇒児 童 85%以上) (⇒教職員 85%以上)	① <u>児童の自分のよさや成長を実感し協力して生活できるように、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も「認める・褒める・励ます」指導に努める。</u> ② 授業の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや努力したことを自覚できるような自己評価、相互評価の場を設ける。 ③ 委員会活動や係活動、当番活動に協力して取り組もうとする態度を育成する。	B	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 90.1%、教職員が 100%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 外国語活動・外国語の授業を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語では、デジタル教科書等の活用を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。 ③ 外国語活動・外国語の授業に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。	B	【達成状況】 児童生徒は 83.1%、教職員は 100%であり、児童の肯定的回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 ②: 家庭学習等で積極的にデジタル教科書を活用する。 ①: 児童同士が外国語を使ったコミュニケーションをとれる授業を意識的に行うようにする。
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上	① 生活科、社会科、特別な教科道徳、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	B	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 88.1%と数値目標は上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 (⇒児 童 85%以上) (⇒教職員 85%以上)	① 児童がパソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的に活用する。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 学級文庫や読書タイムの充実、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	B	【達成状況】 児童生徒は 88.4%、教職員は 100%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。

2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 各教科や総合的な学習の時間における環境教育等を通して、身近な事柄から「持続可能な社会」への関心を高め、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 東日本大震災や田川の氾濫等、災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。	B	【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 95.2%、児童が、91.1%とどちらも数値指標を上回っており、昨年度とほぼ同じ状況である。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、スクールカウンセラーや外部の相談機関を活用するなど、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B	【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 95.2%と数値指数を上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施するとともに、特別な支援が必要な児童に関する共通理解を全職員で十分図り、組織的な支援を行っていけるようにする。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A 11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 ⇒児 童 90%以上 ⇒保護者 80%以上	① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、家庭とも連携して日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する ② 児童会が主体となり、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 ③ 定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、管理職・児童指導主任を中心とした組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。。	B	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 97.4%、保護者が 89.3%と数値指数を上回っている。昨年度の数値と比較すると、保護者の肯定的回答は下がった。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施するとともに、普段の児童の様子、アンケートや教育相談等を通して、いじめと思われる事案が見られた場合には、早期発見、早期解消のために組織的な対応に努める。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も「認める、褒める、励ます」指導に努める。 ② 教育相談、アンケート、Q U調査等の結果を活用し不適應傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候が見られる児童に係る校内全体の情報共有を図る。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 98.7%と数値指数を大幅に上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。配慮児童等に対する教職員の「受け入れる姿勢」が、児童に良い影響を与えているので、「認める、褒める、励ます」指導に努めていく。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 における肯定的回答 (⇒児童 90%以上) (⇒教職員 90%以上)	① 児童が生き生きと活動できる学校行事や児童会集会活動等の実施に努める。 ② 児童会活動において、児童の主体的な活動を重視するとともに、縦割り班活動を積極的に実施する。 ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が97.7%, 教職員が100%と数値指数を大幅に上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
4- (1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	① 教材研究に基づく分かりやすい授業の展開とともに、授業の中でつまづいている児童への状況に応じた支援に努める。 ② 朝の学習や家庭学習を通して復習する機会を設け、基礎基本の定着を図る。 ③ 分かりやすく楽しい授業を目指し、授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実する。	B 【達成状況】 児童生徒は 96.7%であり、高い数値指標を示した。 【次年度の方針】 AI ドリルを活用して、きめ細やかな授業の展開や個別最適な学びに努めながら①②③を継続して実施する。
4- (2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 「チーム昭和」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら一丸となって取り組むよう努める。 ② 教職員の協働性を高めることに視点を置き、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気を大切にしよう。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.2%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。

4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 66.7%と数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 星が丘地域学校園ビジョンに基づき、自己肯定感を高める取組を重点として小中一貫教育・地域学校園を推進する。 ② 乗り入れ授業、教科分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にして効果的に実施する。 ④ 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	B	【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 100%、保護者が 92.5%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 昭和小学校地域協議会（夢工房）を定期的開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っている。 ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用している。 ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動「昭和小インターンシップ」を実施し、キャリアパスポートを効果的に活用することで、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B	【達成状況】 肯定的回答は、保護者が 98.5%、地域住民が 100%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 感染症予防対策、熱中症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B	【達成状況】 肯定的回答は、教職員が100% 保護者が、97.4%と数値指標を上回っており、昨年度とほぼ同じ状況である。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している。 ※デジタル・・・一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなど」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 児童がパソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるように、教員が研修を受けたり ICT 支援員と連携を図って指導にあたったりする。 コンピュータやデジタル機器を使って、授業準備や成績処理、連絡などの業務に役立てる。	B	【達成状況】 教職員は100%であり、高い数値指標を示した。 【次年度の方針】 ①②を継続して実施する。
小・中学校、地域学校共通	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 年間を通して、児童会活動による主体的なあいさつ運動を展開し、認め・褒め・励ますような場を設ける。 ② 学年の発達段階や実態に即しながら、相手に伝わるようなあいさつや、その場にふさわしい言葉づかいができるよう継続的な指導を行う。 ③ 自ら進んであいさつすることや、その場にふさわしい言葉づかいについて、家庭での指導を保護者に働きかける。	B	【達成状況】 肯定的回答は、児童が95.4%、地域住民が100%と数値指数を大幅に上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施するとともに、朝以外のあいさつや校外でのあいさつも進んでできるように、児童の意識を高めていきたい。

	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 「昭和小10の約束」に基づく全校共通理解のもとで、学年の発達段階に応じながら基本的生活習慣の定着を図る。 ② きまりやマナーを守って行動していることを、児童が相互に認め合う場や教師が称賛する機会を数多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。 ③ 校外でもきまりやマナーを守れるよう、「昭和小よい子のきまり（家庭版）」をもとに地域や保護者と連携を図りながら、児童の規範意識高められるように指導する。	B 【達成状況】 肯定的回答は、教職員が90.5%、保護者が95.5%と数値指数を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施するとともに、きまりやマナーを守れるように、発達段階に応じて学年・学級で定着を図ったり、児童会が中心となって呼び掛けたりするなど、児童の規範意識を更に高められるようにしたい。
	B3 児童は、自分のよいところに自信をもち、自己肯定感をもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、自分のよさに気付き、いきいきと生活している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① <u>児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も「認める・褒める・励ます」指導に努める。</u> ② 授業の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや努力したことを自覚できるような自己評価、相互評価の場を設ける。	B 【達成状況】 児童生徒は86.1%、保護者が89.8%であり、児童・保護者の肯定的回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 発達段階に応じた「認める・褒める・励ます」指導を継続的に行う。
本校の特色・課題等	B4 児童は、進んで運動している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 85%以上	① 楽しさと運動量のある体育の授業実践に努める。 ② 各種学習カードを活用することで、児童が進んで運動に親しむ機会を充実する。 ③ 外遊びを奨励するとともに、児童会（運動委員会）の活動などを通して、運動の日常化が図れるようにする。	B 【達成状況】 肯定的回答は児童が79.5%、保護者が90.3%と児童の回答は数値指標を下回り、保護者の回答は数値指標を上回っている。昨年度の数値と比較すると児童は大きく下回っており、保護者の回答は上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。特に、③については、学級でも声掛けを行い、外遊びを推奨していく。

B 5 教職員は、児童のよさや努力を「認める・褒める・励ます」指導をおこなっている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「先生は、自分のよいところを見つけて、ほめてくれる。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 90%以上	① <u>児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、担任も「認める・褒める・励ます」指導に努める。</u> ② <u>教職員が相互に、児童のよさや努力していることなどを伝え合うことにより、担任等が児童を認め励ます機会を充実する。</u> ③ <u>児童のよさや児童が努力したことを保護者に積極的に伝える。</u>	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 94.7%、保護者が 94.6%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
B 6 学校は、八幡山を活用した教育活動を通して、特色ある学校づくりを推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は、八幡山を利用した行事等を行い、特色ある学校づくりを進めている。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 90%以上	① 八幡山ウォークラリー大会、山野横断持久走大会などを、八幡山の施設等を有効に活用して実施する。 ② 生活科、総合的な学習の時間などの年間指導計画に位置付けて、八幡山に関わりながら学習する機会を計画的に設ける。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 94.4%、保護者が 99.4%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

本校では、学校教育目標の具現化に向け、『目指す児童像』を「やさしい子」「元気な子」「よく学ぶ子」とし、努力点の重点化を図りながら、教育活動の充実を図ってきた。また、保護者や地域と協働して、八幡山を活用した学校行事や、児童を主体とした縦割り班活動などによる心の教育の充実とともに、「認める・褒める・励ます」指導に努め、児童が自信をもち、楽しく学び、居がいのある学校づくりを目指してきた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類になり、人と関わる教育活動を少しずつ再開することができた。また、授業参観や学級懇談会、オープンスクールなど保護者や地域の方々に学校の様子をご覧いただく機会も増え、保護者・地域住民の肯定的回答割合が、ほとんどの項目で市の平均値を上回り、全体的に高い値となった。特に、「家庭・地域・企業等と連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている」の肯定的割合は、保護者98.0%、地域住民100%であり、生活科や総合的な学習の時間での活動が、保護者・地域の方々及び企業等の協力のおかげで充実したものとなっていることを示している。

一方、「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」の保護者の肯定的回答は78.6%と、昨年度の本校の数値を10ポイント近く下回った。活動前に目標を設定し、励まし、取り組みを支援してきたが、今後は、よりスモールステップの目標を設定し、頑張りを積み重ねていくなどの改善を図っていききたい。また、教職員の「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」の肯定的回答割合は、66.7%と市の平均値を大きく下回った。本校の教職員が、児童一人一人としっかり向き合い、認め・褒め・励ます指導を丁寧に行っていることの裏返しとも言えるが、児童に寄り添う指導を継続しながら、業務の効率化を図ることが大きな課題となっている。

○星が丘地域学校園では、「学習指導、生活指導等の充実による自己肯定感の高揚」を小中連携の最重点目標として取り組んでいる。日々の指導の中で、褒める種をまき、「認める・褒める・励ます」指導を進めてきた。「教職員は、児童のよいところを見つけほめている」の肯定的回答割合は、児童94.7%、保護者94.6%と今年度も高い数値だった。引き続き、児童の自己肯定感の高揚を図る関わり方を工夫していく。

7 学校関係者評価

- ・元氣いっぱい素直な児童が多く、来校した際には児童の方から挨拶してくれることが多い。相手の顔や名前が分かれば、しっかり挨拶をしているように感じている。引き続き、率先して気持ちの良い挨拶をしていこうと改めて感じた。その場に合った挨拶を身に付けるのは大変だと思うが、時間をかけて指導を続けていくことが大切だと思う。
- ・児童との交流の中で、相手を思いやる場面や優しい対応をしている姿などを目にすることがあった。校長先生をはじめ、教職員全員が、学校経営方針に基づいて、日々児童へ愛情をもって指導してくださっているおかげであろう。
- ・コロナ禍において、必要最低限の会話のみで生活してきたことによりコミュニケーションが不足し、褒められることが少なかったのではないだろうか。コミュニケーション(褒めること)ができる「日常」が戻ってくれば、もっと自分ができることを認識し、自己肯定感が高まっていくのではないだろうか。学校に任せきりにすることなく各家庭や地域でも、挨拶同様、積極的にいかかわっていく必要があると感じた。
- ・学校の授業で学ぶことも大切だが、家庭でもっとやれることがあるのではないかと考える。自主学習の進め方や予習の仕方など、保護者として協力できることをやっていきたい。また、あいさつやマナーなど家庭でも気を付けていきたいと改めて考えることができた。
- ・教職員の勤務時間については、先生方の負担となっていることが何かわからない。働き方改革は大切ではあるが、児童に軸足を置いて改革を進めてほしい。
- ・全体的に評価が厳しすぎるのではないだろうか。実際にはもっといろいろなことができていていると思う。肯定的回答割合のやや低い項目については、一人一人に「もっとやれる」という向上心があるからこそだと感じた。この学校評価は、今後の課題を見つけ、どう取り組んでいくかを考えることが大切だと思うので、これからの対応に期待している。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- 今年度は、学校教育目標の具現化に向け、制限されていた教育活動も少しずつ元に戻すことができ、充実したものとなった。マネジメントシステム全体アンケートの結果は、概ね良好で肯定的回答割合は、市の平均とほぼ同等か上回っているものが多かった。次年度も、地域の教育資源を積極的に活用しながら創意工夫を生かして本校独自の教育活動の充実を図り、「特色ある学校づくり」を推進していくための具体的な方策を考えていく。
- ・自己肯定感の高揚とその場に応じた挨拶を実践していく児童を育てるために、スクールガードボランティアの活動を活用していく。ボランティアの方々には、顔合わせの時からベストを身に付けていただくことで、顔と名前のわかる方であると児童が認識し、安心して挨拶をすることができる。上手に挨拶ができた児童は、ボランティアの皆さんから褒められ、これからも続けていこうという意欲につながる。さらに、褒められたことで自己肯定感も高まっていくという地域・保護者の方々の協力も得ながらの取組を行っていけるよう調整していく。
 - ・感謝の言葉も挨拶の一つと捉え、各種行事や各活動実施時には、「ありがとうタイム」を設け、時と場に応じた挨拶や会話ができるような時間を低学年から継続して設定していく。感謝の気持ちを伝える活動を、伝える時機を逸することなく、本当にお礼を伝えるべき相手に、自分なりの言葉で伝える機会を計画的に設定していく。
 - ・勤務時間を意識した業務の効率化については、児童に寄り添う指導を継続しながら、どのような取組ができるか検討していく。
 - ・自分で考え、今何をすべきかを考えて行動できる児童が増えてきており、自己肯定感の高揚につながっている。星が丘地域学校園小中一貫教育の重点目標である「自己肯定感を高めること」を推進するとともに、本校での取り組みとして児童一人一人を「認める・褒める・励ます」指導を継続していく。